

夏野菜への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

6月も半ば、梅雨の湿気に加え、気温も徐々に上昇し、早くも夏バテ気味の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は、夏バテに有効といわれている夏野菜（きゅうり、なす、トマト）について家計調査の調査結果をみてみましょう。

夏に購入数量が増加

最初に、夏野菜の1世帯当たりの購入数量の推移を月別にみてみましょう。どの野菜も、夏に近づくにつれ購入が増加する一方で、夏が過ぎると減少しています。また、野菜ごとの購入のピークをみると、きゅうりは5月、トマトは6月、なすは8月となっております。同じ夏野菜ですが野菜ごとに、購入のピークが異なることがわかります（図1）。

図1 夏野菜の月別購入数量（平成23年）

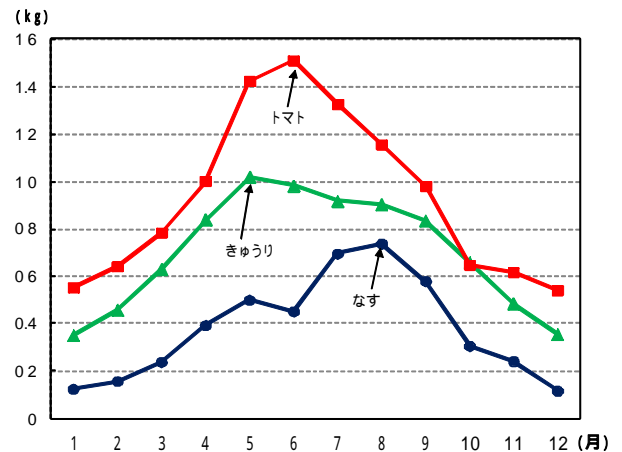
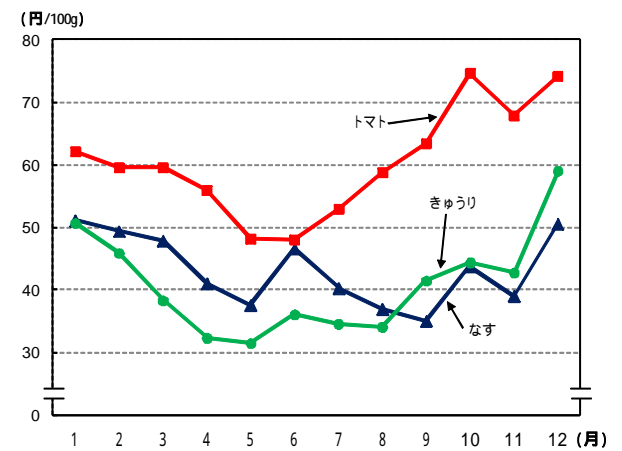


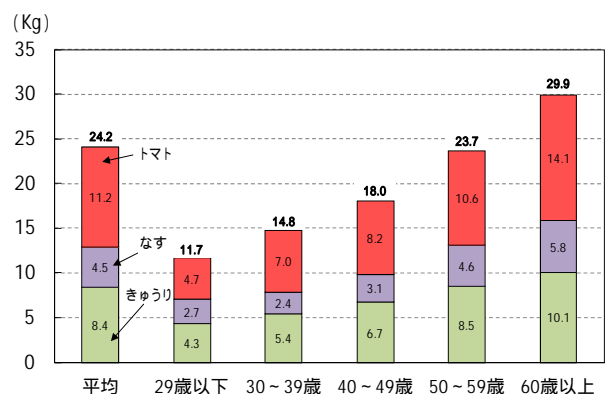
図2 夏野菜の月別平均価格（平成23年）



平均価格は、夏に低い

次に、平均価格（購入単価）を月別にみてみましょう。きゅうりやトマトの平均価格は春から夏にかけて低く、冬に高いという動きをしていることがわかります。しかし、なすは6月に平均価格が急激に上昇しており、同じ夏野菜ですがきゅうりやトマトとは、やや異なる動きをしていることがわかります（図2）。

図3 夏野菜の世帯主の年齢階級別年間購入数量（平成23年）



年齢階級が上がるほど、購入数量が多い

最後に、世帯主の年齢階級別の1世帯当たりの購入数量をみてみましょう。3つの野菜の合計を比較してみると年齢階級が上がるにつれて、購入数量が多くなっています。また、世帯主の年齢が年齢階級は60歳以上の購入数量は、29歳以下の世帯の約2.6倍となっております（図3）。